

15年度調査研究課題提案書

課題名	人および自然に優しい歩行者用道路空間の検討（1） － 人の感性評価の物理的構成要素からの予測について －
内容（目的、計画概要、期待できる効果、行政施策との関連、問題点等）	
<p>【目的】 道路交通における歩道空間を、景観面、利用面について、利用者及び付近住民の意識等を通じて感性工学的な面からその量及び質的な評価を行い、この両面を満たせるような歩道空間を予測する方法論を提示する。</p> <p>【計画概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 調査対象空間 県内公共道路数カ所（事前調査の上決定）。 2 調査協力要請対象 一般市民及び利用者。 3 方法 <ul style="list-style-type: none"> ア 感性ワードの収集 設計及び施設専門家、行政担当者、一般市民を各カテゴリー（各50名）ごとに抽出し、アンケート等の調査を行う。 調査方法については、事前調査等により最適な方法論を検討する。 イ 意味空間の把握 アの結果を解析し、対象についての意味空間の把握を行い代表感性ワードを選出する。 ウ 人の感性評価の予測 対象の物理的要素と代表感性ワードとの関係について調査し（一般市民・利用者300名対象）、その関係を解析し、人の感性評価と歩道空間の物理的構成要素との関係を捉え、物理的構成要素から人の感性評価を予測する方法を探る。 <p>【期待できる効果】 近年、町並みの捉え方において、景観条例等に見られるような「環境デザイン」的な捉え方が定着しつつあり、一方ではユニバーサルデザインに見られるような「利用デザイン」的な捉え方も定着しつつある。 しかしながら、この両面を考慮した捉え方については、いまだ不十分のように見受けられる。例えば、一つ横断歩道を見ると、景観的にはずいぶん配慮されたデザインのものが多いが、利用的には今ひとつ工夫の必要なものが見受けられる。また、視覚障害者等の便を図る点字ブロックは、主目的的には役目を果たしているものの、景観的には今ひとつ改良を必要とするという指摘も見受けられる。 このような両面を満たす為の方法を提示できれば「人に優しい町並みの創造」および「自然に優しい町並みの創造」を支援することができる。</p> <p>【行政施策との関連】 「山口環境創造プラン」「交通バリアフリー法」「ジョイフルロード構想」等に基づく諸施策を技術的に支援する。</p>	
調査研究期間	平成15年度から平成16年度まで（2年間）
所要経費、予算	25万円（旅費、郵送費、需用費等）
参考事項	山口県福祉の町づくり条例第7条、10条、山口環境創造プラン、交通バリアフリー法、未来デザイン21実行計画